千葉県中核地域生活支援センターニュースレター　第106号（令和5年5月発行）

ちばの地域福祉

「中核センター大会2023に向けて」

2023年度中核センター大会実行委員長
中核センター連絡協議会会長　渋沢茂

昨年度から、中核地域生活支援センター（以下「中核センター」）事業の中に、「重層的支援体制構築のための市町村支援事業」が位置づけられています。地域共生社会の実現に向けて、国が提唱する「重層的支援体制」の構築について、市町村から千葉県に寄せられた「他の市町村の取り組みを知りたい」「研修等を通じて市町村間の交流を促進してほしい」等の要望に応えたものです。

昨年度の中核センター大会では、このことをテーマとして取り上げました。厚労省の基調説明と県内で実施している 2 つの自治体の実践を伺いました。厚労省が地域共生社会に向かうツールの一つとして、工夫をこらしてこの事業を用意していることが分かりました。自治体の実践者が苦労をしながら（同時に楽しみながら）、事業を形にしている様子を感じました。だからこそ、相当な苦労を惜しまない自治体の方がいない地域ではこの事業を形にするのは難しいのではないかとも感じました。また、規模の小さい自治体（町村部等）では、そもそもが多分野の相談支援を顔の見える関係の中で行っているため、相談支援の部分については重層事業のフレームに入れ込む必要がないのではないかとも思いました。

今年度は千葉県内８の自治体で、重層的支援体制整備事業が始まる予定です。少しずつ実施する自治体の数は増えていますが、全ての自治体がこの事業を行うのは無理があるのではないかとも思います。庁内で理解を得ることの難しさや事務作業の煩雑さ、財政的メリットが少ないこと等がその理由です。

ところで、現在千葉県では第 5 次の地域福祉計画の策定をしています。策定のための基礎データとして県が市町村に行った調査では、令和 2 年度までに 21 の自治体が「対象者横断的な総合相談窓口」を設置していると答えています。また、地域福祉を進める上で、現在重視している取り組みとして、「包括的な相談・支援体制の構築・充実」を上げた自治体は 54 自治体のうちの 44 自治体に上がり、8 割を超える自治体がこのことを重視していることが分かりました。ところが、何をもって「対象者横断的な総合相談窓口」とするのか、「包括的な相談・支援体制」とは何か。明確に答えられる人は不在です。私たち中核センターにしても 19 年前から「福祉の総合相談」を標榜して活動してきましたが、何をもって総合相談というのか明確な言葉を持っていません。そもそも、私たちは総合的な相談支援を行うことが出来ているのかどうか、自信の無いままに日々の活動を行っています。

今年度、私たちは、相談支援、総合相談とは何かを考えます。そのことが、重層事業を行っている自治体も、行っていない自治体も一緒に考えることが出来る、地域共生社会の実現に向かうための一助になると思うからです。

『すけっと』の地域づくり(印旛圏域)

いんば中核地域生活支援センターすけっとです！すけっとの管轄地域は印旛圏域の７市２町で、おなじみのチーバくんで言うと「目から頬」の辺りになります。圏域内の人口は72．８万人を超え、広域福祉圏域では３番目の人口規模になっています。すけっとでは日々の相談をとおして把握した地域ニーズから、下記のような地域づくりに関する活動を行っています。

「Take a step」の活動

相談ケースの中の不登校や引きこもりの方を対象に、『居場所ではない次に繋がる場』として活動しています。発達障害の特性などから幼児期の人間関係の基礎である愛着行為の育ちの弱さがみられる方もいます。また、失敗体験が多く、自己肯定感の育ちも弱く、不安症状や人間不信から『うつ』『統合失調症』等の２次障害である精神症状が生じるのではないかという方もいます。そのため、Take a step の活動を通じて自尊心を高めることを目的とした活動に意義があるのではないだろうかと考えました。

活動としては畑活動、室内活動、スポーツ活動、家族支援です。

畑活動は収穫した野菜をこども食堂に参加者と一緒に届け、お弁当という形で提供されました。

室内活動については刺し子、革細工等を行いました。制作物を所内で作品展として掲示し来所者や職員に周知をしました。

スポーツ活動はレクリエーション協会の体育館でボッチャ、ドッチビー等を行いました。他の活動では味わえない、身体を使った活発な表現ができました。

家族支援についてはスポーツ活動時に別室にてGW形式で子どもに対する「困りごと」や「いいところ」を挙げてもらい共有しました。

参加者からは『同じことで悩んでいた』や『このように悩みことを吐き出す機会がほしい』といった声が聞かれました。引き続き活動を活性化させていきたいと考えています。

「Café　CLOVER」の活動

昨年度から高齢者と障害者の複合施設「風の村なりた」で地域の高校生を対象とした居場所カフェを始めました。

高校卒業後もしくは在学中にヤングケアラーなどの課題を抱えた世帯が、早期に福祉につながる場所として、また、先生たちが心配な生徒を福祉職に気軽に相談できる場所として、教育と福祉の連携を図るきっかけになればと考えていました。昨年度は12月と３月の２回開催し、地域の高校生や地域住民の方にも参加いただきました。

３月開催時は、お菓子、カップラーメン、お米などの配布のほかに、ボッチャ、わなげなどのゲームも催し、職員と一緒に楽しむ時間を持つことが出来ました。

また、地域住民の方から焼き芋やバルーンアートも企画いただき、皆さんにご協力をいただきました。まだ始めたばかりで手探り状態ですが、少しずつ参加してくれる学生さんや地域の皆さんが増えてきています。今後も地域に根付いて気軽に参加できる場所になればと考えています。

印旛圏域では今年度、佐倉南高校で校内居場所カフェも始まります。
これからも地域の皆さんと一緒に地域づくりを進めていきたいと考えています。

『さんネット』の地域づくり(山武圏域)

［山武圏域］ 山武圏域は３市３町（東金市・山武市・大網白里市・九十九里町・横芝光町・芝山町）の九十九里沿岸の自然豊かな地域です。各市町で過疎化・高齢化対策に奮闘中です。社会資源が豊かとはいえませんが、圏域全体で資源をシェアしているのが特徴です。磯浜料理やいちご、もつ煮など、おいしいものを食べにお越し下さい！

山武地域では、居場所から始まる相談支援・ネットワークづくりとして、「みんなの心のよりどころ・ホッとステーション」事業を展開しています。行政区画ではなく、住民一人一人にとっての生活空間の中で誰でも来てもよい居場所を創る、ここに集まれ！という１か所ではなく、山武の地域で気軽に立ち寄れる場所をたくさん増やす活動です。（WAM 助成事業）

また、協同で活動する機関同士が、「①困っている方を支援機関につなげてもらえる、②平時の際には情報共有やイベント周知、災害時には連携ネットワークになれる」そんな関係を築いています。

ホッとステーション各所では、子ども食堂やフードバンク活動、スポーツイベントや地域行事などが開催され、相互にＰＲし合っています。

みんなの心のよりどころ ホッとステーション

気軽に立ち寄れるみんなの「居場所」を身近な地域でいっぱい作る活動です。

【地域住民】がつながる

◆地域で「　」マークがあるところを気軽に**「居場所」**として活用できる

◆場所によっては**「困り事相談」**や**「就労訓練・ボランティア」**が利用できる。

【協同機関・団体・店舗】がつながる

可能な範囲で「時間・場所」を地域へ提供(解放)することで、地域活動＆ＳＤＧs活動に参画。

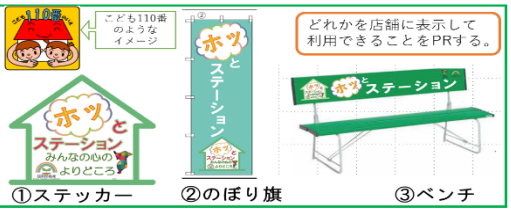
≪ホッとdeネットワーク≫

◆LINE WORKS(SNS) でネットワークをつくり、各機関同志で活動や催事情報の発信＆共有ができる。

◆【発災時】⇒情報収集及び協力関係が築ける。

登録数 65機関
(R4.11.25 現在)

PR方法



ホッとステーション活動の成果と変化

ホッとステーション説明資料及び説明動画はこちら ➡

(1)活動の理解者・協力者を増やす

「協力」ではなく**「協同」**へ

＜複数の人が力を合わせること＞

「1つ」の活動に協力するのではなく、みんなで協同して「1つ」を作る

(2)フードバンクちいき（こども）食堂

①フードバンク寄付者の増加
②子ども食堂のニーズの増加
③地域イベント開催が大人気

「ＳＤＧｓ」「フードロス」「居場所」のキーワードが広く伝わりやすく共感を生んだ

(3)多分野・多機関からの協力

①福祉（高齢・障害・児童也）　②飲食店
③地域交流機関　④教育施設　⑤塾
⑥医療機関　⑦デザイン会社⑧建築会社
⑨自動車整備会社 ⑩図書館　⑪町役場
⑫空の駅　⑬観光施設　⑭寺社
⑮高校・大学　⑯病院　⑰その他

(4)ボランティア活動の効果

①ひきこもり傾向の人
②自暴自棄傾向の人

支援される側 ➡ 支援する側

③コロナ禍で地域活動経験ゼロの学生
④仕事経験がゼロの人

活動実績ゼロ ➡ **経験者(自信♪)**

分野横断鉄道［動物］

教育　医療　雇用

国際　消費　住居　司法

千葉県動物愛護センターは、動物愛護精神の普及、啓発を図るとともに狂犬病の予防、動物による危害防止など、動物愛護管理行政をより充実し、住みよい生活環境づくりを進めるための施設です。

主な事業は野犬等の捕獲・抑留及び返還、負傷動物の保護・収容、犬猫の引き取り、譲渡事業、動物愛護事業（犬のしつけ方教室や愛護教室等）の開催などです。

また、様々な理由から犬や猫を飼えなくなってしまった飼い主に対して、これから飼いたいと希望している方を探す場として「犬と猫との出会いの場」を当センターホームページ内で公開しています。

ペットを家族の一員あるいは心の支えとする方々が増えてきています。一方で十分な知識がないまま安易に飼い始め、結果的に不適切な飼い方や飼育放棄につながり、近隣とのトラブルを起こしている例が少なくありません。

動物を飼うときは、その動物に対して責任と愛情を持ち、最後まで飼いましょう。

★犬のしつけ方教室を動画で配信をしています。ご視聴を希望される方はホームページから申請ください。専用のＵＲＬをお送りいたします。

千葉県動物愛護センター【本所】
〒286-0211富里市御料709-1
電話番号：0476-93-5711
ファックス番号：0476-93-5326

犬と猫との出会いの場

しつけ方教室

司法　住居　消費　国際

雇用　医療　教育　動物

ちば・地域発　～県内ア・ラ・カルト～

県社会福祉センターが新しくなりました！

社会福祉法人千葉県社会福祉協議会や県内の民間福祉事業者など、県の社会福祉関係団体の活動拠点として機能してきた県社会福祉センターが、県立施設として４月からリニューアルオープンしました。

県民の福祉活動のために会議室や研修室を一般開放するとともに、福祉関連の図書の貸し出しや展示などによる情報発信を行います。

＜施設の役割＞
- 福祉関係団体の活動拠点
- 県民の地域福祉活動促進の拠点
- 福祉人材養成・確保の拠点
- 災害時の福祉的支援の拠点

＜場所＞ 千葉市中央区千葉港 4-5

＜交通＞ 千葉モノレール市役所前駅から徒歩５分
JR 京葉線・千葉モノレール千葉みなと駅から徒歩 10 分

＜問い合わせ＞ 県健康福祉指導課　tel 043-223-4717
県社会福祉センター　tel 043-241-0885

発行元：千葉県中核地域生活支援センター連絡協議会
事務局：海匝ネットワーク（海匝圏域）旭市ロ838
TEL0479-60-2578　FAX：0479-60-2579
編　集：夷隅ひなた（夷隅圏域）いすみ市大原8927－2
TEL0470-60-9123　FAX：0470-60-9124